九州ルーテル学院大学

Teaching Portfolio

2025

所　　属：教職・保育支援センター

名　　前：小原　孝徳

ティーチングポートフォリオの作成・更新手順

作成日：2025 年 2 月 21 日
教員氏名：小原　孝徳
所属：人文学部　人文学科　教職・保育支援センター

1．はじめに

実務家教員としてこれまでの教職経験等を活かして、本学で熱意を持って教職を目指す学生たちに、学校の教育活動にいかせる実践的な力の定着を目指して授業内容や展開の工夫に努めてきた。

また、教職・保育支援センターとして、教員採用選考考査に向けた学生の学びを支援する講座を実施し、教職への夢の実現に向けて取り組んでいる。

2．教育の責任

教員養成段階での大学の責任については、中教審答申等で「教員となる際に必要な最低限の基礎的・基盤的な学修」を行う段階であることを認識する必要がある、と示されている。

そして、これからの教員に求められる資質能力については、「新たな学びを展開できる実践的指導力(基礎的・基本的な知識・技能の習得に加えて思考力・判断力・表現力等を育成するため、知識・技能を活用する学習活動や課題探究型の学習、協働的学びなどをデザインできる指導力)」 などが示されており、その後の答申でも、「実践的指導力の基礎の育成」 の必要性が指摘されている。

さらに、「令和の日本型学校教育」を担う教師の姿として、①環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続けている、②子供一人一人の学びを最大限に引き出す教師としての役割を果たしている、③子供の主体的な学びを支援する伴走者としての能力も備えている。の三点が示された。

そこで、担当する以下の教職課程の授業自体をアクティブ・ラーニングの視点から改善し、授業内容や展開を工夫しながら実施することで「実践的指導力の基礎」を育成する責任を果たすことを目指す。

(1) 授業科目の担当

2022 年～2024 年度の 3 年間は以下の科目を担当している。

科目名	受講学年	履修者数	
社会	2 年後期	約 40 人	教職必修
社会科教育法	3 年前期	約 40 人	教職必修
特別活動・総合的な学習の時間の指導法（小）	2 年前期	約 40 人	教職必修
特別活動・総合的な学習の時間の指導法（中高）	2 年後期	約 30 人	教職必修
教育法規	3 年前期	約 50 人	教職選択・必修

小学校教育実習Ⅰ	３年前期	約 40 人	教職必修
小学校教育実習Ⅱ	３年前期	５人	教職必修
公民科教育実習Ⅰ	３年後期	８人	教職必修
公民科教育実習Ⅱ	４年前期	８人	教職必修
教職実践演習（小）	４年後期	約 40 人	教職必修

■　主要授業科目

【社会】

社会科授業づくりに必要な教材研究について、地理的資料や歴史的資料から社会的事象を追究し、教材研究の意味と授業構成との関係をつかんでいくことをめざす授業。

【社会科教育法】

小学校教諭に必要な社会科学習指導要領の目標等の理解、教材研究と授業構想の作成、模擬授業の実施と検討、ICT 活用等による授業構成力と授業実践力の向上を目指す授業

【特別活動・総合的な学習の時間の指導法】

担任教諭として必要な特別活動・総合的な学習の時間の学習指導要領の目標等の理解、授業構想や単元計画作成、模擬授業等の実施と検討による学級経営の基礎や授業構成力の向上を目指す授業

【教育法規】

憲法、教育基本法、学校教育法、教育公務員特例法など、教育関係法規の各条文等について検討し、学校教育や教育実践との関係や教職員の身分や服務などを考えていく授業。

■　非常勤講師　なし

(2) 教育組織運営

教育実施に際して学内では以下の分掌を受け持つ。

・教職・保育支援センター運営委員会

教職・保育にかかる免許取得や教育実習、採用試験等の支援とその運営等

３．教育の理念

(1)理念１　学びの楽しさを体感し、学び続ける教師としての意欲を高める

教職を目指す学生に、児童生徒に学びの楽しさを伝える教師となることを期待している。そのために、深い教材研究を体験することなどを通して、学生自身が学びの楽しさを再確認し、深い学びを実践できることを目指す。

(2)理念２　教師として必要な資質・能力を着実に身につけさせる

教師として必要な資質･能力の中心となる実践的な指導力の基礎を確実に身につけさせたい。そのため、授業内容をより実践的な内容とし、体験をとおして理解することを目指す。また、教職に必要なコミュニケーション能力などの向上も目指したい。

(3)理念３　教職を目ざす意欲を高め、夢の実現を支援する

教職を目指す意欲を高めることを目指して、教職の素晴らしさや授業の楽しさなどを体感させるとともに、教職を目指す学生の夢の実現を支援する。

４．教育の方法

(1) 授業を「主体的・対話的で深い学び」となるようアクティブ・ラーニングで実施

深い学びとなるよう、資料や地域の教材などについて教材研究を深める事前学修課題を設定し、その成果を班内で発表しあい協議する。その上で、授業構想や模擬授業案作成等を設定し、次の授業で模擬授業の実施と協議等を行うことにより、学生自らが主体的に学修していく授業形態を工夫する。

(2) 授業内容や展開を工夫して実践的指導力の基礎を育成する

教材研究と授業構成の意味や方法を体験的に身につけ、実践的指導力の基礎の育成につなげる。そのため、事前学修課題を学校の日常的な指導場面や授業構想、模擬授業案作成等を設定する。さらに講義で班別に模擬授業と研究協議を行うなど、コミュニケーションの必要性やその能力を高め、協調性を身につけていく授業形態とする。

(3)　教員採用選考考査への学修支援の充実

教員時代の授業の模擬授業実施や体験談により教職のやりがいや喜びなどを伝え、教職への意欲を高めることを心がける。また、教員採用試験対策講座を早期から設定し、教職関係教員全員で協力して、参考資料提供や面接・模擬授業指導等の充実により、教職を目指す学生の夢の実現を支援する。

５．教育改善のための努力

(1)改善努力１　授業評価アンケートと授業改善報告書

各授業についての授業評価アンケートの結果から、各授業の改善策について具体的に検討し、改善を図っていく。

・社会や社会科教育法では、実践的でためになる授業だったとの感想も多かったが、事前学修課題の負担が大きいことも示されており、効率的な課題を工夫したい。

・教育法規等では、多方面からの法規を取り上げたが、説明中心の授業になっているとの指摘が多く、協議等を含めた授業構成を工夫していきたい。

(2)改善努力２　授業感想・事前課題の達成状況からの授業改善

各授業後に事後学修として振り返りや感想､事前学修課題の提出により、学修内容の理解や考察などの評価をするとともに、次の授業改善の資料としていく。

6. 教育の成果・評価

授業毎回の感想の評価とともに、事前学修課題や模擬授業等実施の評価を行いながら、実践的指導力の基礎の育成について評価していく。

また、教員採用試験結果も評価するとともに、対策講座の内容等についても、学生からの意見も踏まえて改善を図っていく。

7. 今後の教育に関する課題と目標

・より実践的指導力の基礎が育成できるよう、授業内容や事前学修課題の改善、ICT 等の活用や教材資料の工夫など、着実な改善を図っていく。

【根拠資料】

・担当科目シラバス

・授業評価アンケート結果

・各科目の学生の感想・事前学修課題の提出資料（Moodle 上）